

■桂川甫周(国瑞) 蘭方医で地理学者。学者名門桂川家中最も有名で、〈寛政の改革〉に翻弄されながら、大きな役割。

かつらがわほしゅう

徳川吉宗没・1751= 桂川甫三(国訓)の長男に生まれる。

大岡忠光没・1760= 9歳：

父に蘭学を学び、

・・・・・・1769=18歳：

御蔭参流行・1771=20歳：杉田玄白ら「解体新書」訳述社中に参加、仲間うちで若いながら実力を高く評価され、
田沼意次老中1772=21歳：幕府に願ひ出て、江戸参府蘭館長一行と対談し、以後、恒例となる。

解体新書・1774=23歳：完成した「解体新書」には「閲者」として名を列ねる。

黄表紙始・1775=24歳：和蘭商館医C・P・ツェンペリーを訪問、生物標本作成法を伝授されるなど、新知識獲得を心掛ける。

雨月物語刊・1776=25歳：中川淳庵とツェンペリーの弟子になる。この年、母が死去。

・・・・・・1777=26歳：幕府奥医師に任命される。

船蝦夷来 1778=27歳：

交際が広く、知識人のサロンとして甫周の邸は賑わい、

蘭学階梯・1783=32歳：父国訓が死去。法眼に叙され、西丸御伺御薬用を勤めて褒美。

意知刺殺事件1784=33歳：安祥院殿伺い女中を治療。西丸御伺御薬用を勤めて褒美。

蝦夷初調査・1785=34歳：西丸御伺御薬用を勤めて褒美と続くが、美男と大奥で噂されたことから、疑いをかけられ、

田沼意次失脚1786=35歳：罷免される。歴代桂川家では唯一地理に関心を示し、大槻玄沢と「新製地球万国図説」を訳述、

寛政改革始・1787=36歳：

混浴禁止・1791=40歳：「地球全図」を訳述、

ラスマン来日・1792=41歳：宇田川玄随にゴルテルの内科書を渡して「西説内科撰要」を訳述せしめる等、スポンサー的恩人でもある。

松平定信引退1793=42歳：この年、多紀氏から養子国寶を迎える。*法眼奥医師に復帰。前年ロシア使節の送致した漂流民大黒屋光太夫らの將軍引見に列席、徳川家斉の命で、聞書「漂流民御覧之記」を編み、傍ら「魯西亜誌」を訳述。

オランダ 正月・1794=43歳：和蘭甲比丹G・ヘンメイを訪ね対談後、前2書をまとめた「北陸聞略」を献上。以降、医学館で外科を教授。

写楽・・・・1795=44歳：將軍家齋の小金原狩獵にお供する。

プロト来航・1796=45歳：

古事記伝・1798=47歳：江戸参府の和蘭甲比丹G・ヘンメイ・蘭医レッケを訪ね、会談。前年死去した宇田川玄随の墓碑をつくる。

伊能測量始・1800=49歳：松浦静山の要請で、スメリーの英文産科書の表題を訳する。

初めて顕微鏡を医学に応用し、

膝栗毛始・1802=51歳：將軍徳川家斉に顕微鏡の使用法を言上する。江戸参府の和蘭甲比丹、W. ワルデナールを訪ね、対談。

青洲麻醉手術1805=54歳：

報復・1806=55歳：両国河内屋で大槻玄沢と対談。

間宮海峡発見1809=58歳：没した。

その他「和蘭薬撰」「外科大成」「海上備要方外傷門」「瑞竹堂経験方」を著わす。